

市民病院だより

大崎市民病院理念・基本方針

【病院理念】

～市民が安心できる医療の提供～

【基本方針】

市民に適切な医療の提供
地域に貢献する医療の構築
健全経営の確保



大崎市民病院鳴子温泉分院が開院



▲新しくなった鳴子温泉分院外観

鳴子温泉分院について紹介

新大崎市民病院鳴子温泉分院が旧病院敷地内に建設し、令和3年6月1日から診療を開始しました。鳴子温泉分院は、昭和13年に仙台陸軍病院臨時鳴子分院として開院して以来、国立鳴子病院、鳴子町立鳴子温泉病院を経て、平成18年に大崎市民病院鳴子温泉分院となり、これまで80年以上にわたり地域医療を担ってまいりました。

新鳴子温泉分院が、今後も地域の「かかりつけ医」として、住民が住み慣れた地域において良質かつ適切な医療を受け続けられるよう体制の維持と充実に努めてまいります。

鳴子温泉分院管理課 ☎82-2311

施設内・設備の紹介

診療科目	内科・外科・整形外科・眼科・耳鼻咽喉科
病床数	40床（うち地域包括ケア病床10床）
	1床室：8室 4床室：8室
構造	鉄筋コンクリート構造・耐震構造
階数	地上2階建て



1F



▲リハビリテーション室



▲CT室



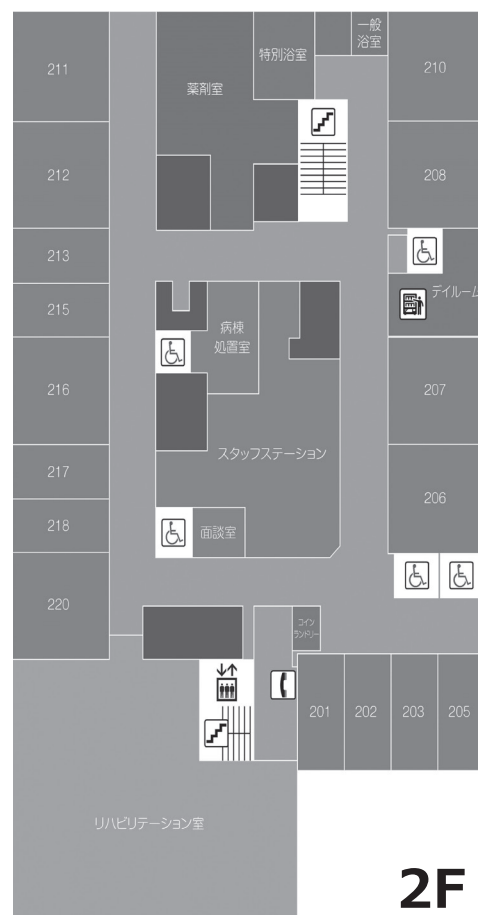
▲一般浴室



▲外来診察室



▲一般病室



2F

分院長の挨拶

大崎市民病院鳴子温泉分院

分院長 佐藤 明裕



令和三年六月一日開院した新鳴子温泉分院ですが、建設にあたっては、基本構想策定のため計四回のワークショップを開催するなど、地域の皆様との話し合いから始まりました。

鳴子温泉分院については国立鳴子病院として、昭和四十年代に建てられた後、平成十一年の鳴子町への移譲、平成十八年の大崎市民病院誕生とめぐるしくも数々の歴史を刻んできた、思い出深き建物であります。しかし、五十年という月日に勝てるはずはなく、老朽化の波にさらされ、夏は暑く、冬は寒いなど、患者さんへの我慢を強いる状態でありました。

今回完成した病院は、以前と比べるとかなりコンパクトではありますが、これまで蓄積してきた経験を生かし、工夫を凝らして、診療はもとより患者さんが快適に過ごせるように心を尽くしております。

鳴子温泉分院は、地域にとつてはかけがえのない^{よりで}若であり、我々医療従事者にとつても大切にすべき城であります。地域の医療機関が減少する中で、新しく生まれ変わった新病院への期待は大きく、地域のかかりつけ医として、大崎市民病院の理念である「市民が安心できる医療の提供」ができるように、スタッフ全員が一丸となつて、これからも取り組んでまいります。

地域包括ケアシステム・連携室について

鳴子温泉分院では、全10床で地域包括ケア病床の運用を開始しています。

全国的にも、要介護・要支援認定者の増加と共に地域に住む高齢者が、その地域で自分らしい生活を維持していくためには、患者さんとその家族を中心に地域包括支援センター、医療機関、介護支援センター、医療機関、介護支援事業所などの職種が密接に連携し、状況に応じて助け合う必要があります。

そこで、①医療・看護、②介護・リハビリテーション、③予防・保健、④生活支援・福祉サービス、⑤住まいと住まい方の五つのサービスを一体的に提供できるケア体制を構築し、地域に住む高齢者を支える仕組みが地域包括ケアシステムです。

鳴子温泉分院に設置した地域包括ケア病床は、本院などの急性期病院からの治療を終了し、病態が安定した自宅退院のリハビリテーションを目的とする患者さんや、在宅での療養生活に向けた生活支援や療養準備が必要な患者さんを

受け入れる役割を担っています。

また、令和二年六月に地域医療連携室を立ち上げ、地域に住む高齢者が住み慣れた自宅（地域）で過ごせるよう、関係機関との連携をスムーズに行い、患者さんを中心に入退院調整などの前方・後方支援や相談支援に取組んでいます。お気軽にご相談ください。



▲鳴子温泉分院 地域医療連携室スタッフ

☎ 鳴子温泉分院地域医療連携室 ☎ 82-2311

激励の言葉をいただきました

大崎市民病院の新型コロナウイルス感染症対応に
して、大崎市立古川第五小学校、大崎市立古川中学校
の児童・生徒たちから応援の横断幕や心温まるメッ
セージをいただきました。

皆様からのこのようなご支援、メッセージは医療ス
タッフをはじめ職員一同大きな励みになっており、心
より感謝しています。

応援してくださる皆様の期待に応えられるよう、職
員一人ひとりが安心安全な医療を提供できるよう努め
てまいりますので、今後ともよろしく願います。



▲（上）第五小学校からのメッセージ （下）古川中学校からの横断幕

市立宇和島病院人事交流レポート

助産師 佐々木 里菜
ささき りな

私は姉妹都市の人事交流の一環として、愛媛県宇和島市の市立宇
和島病院から研修にやってきました。市立宇和島病院では、産
科・婦人科・外科・乳腺外科の患者さんが入院されている混合病棟で、
分娩介助をはじめとする助産業務や看護業務を担当してきました。
初めての東北地方での生活や産科単科での勤務に不安を感じてい
ましたが、大崎市や病院スタッフの方々が優しく接してくださり充
実した毎日を送っています。

今回の研修では、市立宇和島病院
と比較して約四倍の分娩件数がある
大崎市民病院において、助産業務の
知識や技術の向上を目標に助産師と
して成長できるように頑張りたいと
思います。



▲写真中央 佐々木助産師

アンケートにご協力ください

当院では、病院の医療機能や役割、取組等をご
理解いただくため、広報誌「市民病院だより」を
発行しています。誌面づくりの参考にさせていた
だくため、アンケートを実施していますので、下
記QRコードを読み取りいただき、専用サイトか
らご回答をお願いいたします。



▲バック
ナンバー



▲アンケート

市民病院だより No. 21 2021年7月1日発行【年4回発行】

編集・発行

大崎市民病院 経営管理部経営企画課 TEL 0229-23-3311（内線 3705）

〒989-6183 大崎市古川穂波三丁目8番1号

Web <http://www.h-osaki.jp> E-Mail kikaku@h-osaki.jp

